事務事業分析シート（令和3年度）

No1

事務事業コード	05-04-01	戦略プラン	○ 協働 ● 業務 ○ 財務 ○ 人事				
事務事業名	事務管理費	部課名	地域文化スポーツ部ゆいの森課	課長名	小林		
		担当者名	上村	内線	2256		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（3年度）	01-02-01	事務管理費					
事務事業の種類	○ 新規事業 （ ○ 3年度 ○ 2年度 ）	○ 建設事業	● それ以外の継続事業				
開始年度	平成 28 （ 2016 ） 年度	根拠法令等	荒川区立ゆいの森あらかわ条例				
終期設定	● 有 ○ 無 令和 7 （ 2025 ） 年度						
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準	計画区分	○ 計画 ● 非計画				
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	10	活力ある地域コミュニティの形成				
	施策	02	地域文化とコミュニティの拠点づくり				

目的	ゆいの森あらかわの適切な維持管理により施設の長寿命化を図るとともに、魅力的かつ快適で安全・安心なサービスの充実を図る。
対象者等	ゆいの森あらかわ利用者
内容	【開　　設】平成29年3月26日 【所 在 地】荒川区荒川2-50-1 【土地面積】4,111㎡ 【述床面積】10,944㎡ 【構　　造】鉄筋コンクリート造　地上5階地下1階 【開館時間】午前9時30分～午後8時30分 【主な事業】中央図書館、吉村昭記念文学館、子どもひろば等
経過	平成21年11月　複合施設の設置及び運営に関する懇談会の設置 平成23年 7月　（仮称）あらかわ二丁目複合施設基本計画策定 平成24年 3月　荒川地区都市再生整備計画策定 10月　（仮称）荒川二丁目複合施設基本設計及び展示基本設計完了 平成26年 3月　（仮称）荒川二丁目複合施設実施設計完了 10月　複合施設の建設工事着工 平成27年 2月　愛称名を「ゆいの森あらかわ」に決定、プロポーザルによりカフェ運営事業者決定 平成28年 1月　ロゴマークの決定　3月　管理運営方針の策定　6月会議　設置条例制定 平成29年 1月　竣工　3月26日　開館 平成30年 3月　テーブル・座席の増設、館内サインの追加製作 令和2年　4月　新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館（4月8日～5月29日）
必要性	ゆいの森あらかわの運営により、区内全体の知とコミュニティの醸成を図るため、世代や地域、目的が違う人々が集い、交流と体験を通して、知の集積や発信、新たな知的文化活動の誘発や企画が生まれる施設の必要性は高い。
実施方法	（ 2一部委託 ）　（ 直営の場合 ○ 常勤職員 ○ 会計年度任用職員 ） 夜間総合受付・設備維持管理・清掃・警備・植栽管理業務等を委託

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移 30年度	元年度	2年度	3年度見込み	目標値（8年度）	指標に関する説明
①	入館者数	707,295	697,418	355,860	432,000	732,000	ゆいの森あらかわ入館者数
②							
③							

事務事業の分類 3年度	4年度	分類についての説明・意見等
推進	推進	安全・安心で快適な施設運営と設備の適正な維持管理を図っていく。

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
予算額	-	-	181,750	178,057	178,467	180,102	174,096
決算額（3年度は見込み）	-	-	147,982	162,882	163,517	157,790	174,096

実績の推移 事項名（3年度は見込み）	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
修繕件数	0	0	3	14	20	15	30

予算・決算の内訳

令和元年度（決算） 節	主な事項	金額（千円）	令和2年度（決算） 節	主な事項	金額（千円）	令和3年度（予算） 節	主な事項	金額（千円）
旅費	近接地内外旅費	299	旅費	近接地内外旅費	22	旅費	近接地内外旅費	358
需用費	光熱水費・食糧費・一般需用費	45,106	需用費	光熱水費・一般需用費・家屋等修繕費	37,507	需用費	光熱水費・一般需用費・家屋等修繕費	52,707
役務費	電話・郵便・手数料等	6,244	役務費	電話・郵便・手数料等	7,960	役務費	電話・郵便・手数料等	9,275
委託料	施設管理に係る業務委託等	109,660	委託料	施設管理に係る業務委託等	108,899	委託料	施設管理に係る業務委託等	110,881
使用料等	トイレ衛生装置・AED賃貸借等	986	使用料	トイレ衛生装置・AED賃貸借等	545	使用料	トイレ衛生装置・AED賃貸借等	545
備品購入費	家具什器購入費	1,222	その他	報償費・備品費	2,857	その他	報償費・備品費	330

（単位：千円）

行政コスト計算書 勘定科目	元年度	2年度	差額	勘定科目	元年度	2年度	差額
行政費用 給与関係費	17,934	15,224	▲ 2,710	行政収入 地方税等	0	0	0
物件費	160,304	153,771	▲ 6,533	国庫支出金	0	964	964
維持補修費	3,213	3,999	786	都支出金	0	0	0
扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
補助費等	0	20	20	使用料及び手数料	5,219	2,865	▲ 2,354
減価償却費	256,184	256,184	0	その他	2,409	1,527	▲ 882
不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	7,628	5,356	▲ 2,272
賞与・退職給与引当金繰入額	2,086	3,493	1,407	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 432,093	▲ 427,335	4,758
その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	▲ 11,425	▲ 9,061	2,364
行政費用合計(b)	439,721	432,691	▲ 7,030	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 443,518	▲ 436,396	7,122
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 443,518	▲ 436,396	7,122

備考

行政費用では、物件費（光熱水費）が減少した一方、建物の維持補修費用が増加した。行政収入では、感染症防止対策事業として文化庁の補助金を活用し、コロナ対策を実施した。また、新型コロナの影響による休館、営業の縮小のため、駐車場、カフェ等の使用料収入が減少した。

問題点・課題

・新型コロナウイルス感染防止策に対応した施設運営を行っていく必要がある。
・定期的な保守点検や必要な修繕により、施設の維持管理を行うとともに、予防保全の観点から計画的な修繕を実施することにより、施設の長寿命化を図る必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和2年度に取り組む具体的な改善内容	令和2年度に実施した改善内容および評価	令和3年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	利用者が安心してゆいの森あらかわに来館できるよう、新型コロナウイルス感染拡大防止に対応した施設運営を行う。	入館票の記入及びサーマルカメラの導入に加え、各カウンターにビニールシートを設置するなど、様々な感染症対策を講じた。	引き続き利用者が安全・安心で快適に施設を利用できるように、感染防止対策を行う。
②	施設の適切な維持管理を図るために、定期的な保守点検や修繕を実施し、大規模な機能障害を未然に防ぐ。	定期的な保守点検や必要な修繕の実施により、施設の適切な維持管理を行った。	引き続き定期的な保守点検や修繕により、適切な維持管理を図るとともに、予防保全の観点から計画的な修繕を検討する。
③			

他区の実施状況

（実施 0 区　未実施 22 区　不明 0 区）

図書館、文学館、子どものための施設が融合した、これまでにない新しいコンセプトの施設である。

議会質問状況（要旨）

・平成28年度　6月会議　成果と今後の方向性について
・平成28年度　決特　ゆいの森あらかわの周知について
・平成29年度　決特　サインの見直しについて
・平成29年度　決特　カフェの運営について
・平成29年度　予特　適切な施設管理について

事務事業分析シート（令和3年度）

No1

事務事業コード	05-04-02	戦略プラン	● 協働　○ 業務　○ 財務　○ 人事		
事務事業名	事業運営費	部課名	地域文化スポーツ部ゆいの森課	課長名	小林
		担当者名	木次	内線	2256

事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（3年度）	01-03-01	事業運営費

事務事業の種類	○ 新規事業　（ ○ 3年度　○ 2年度 ）		○ 建設事業	● それ以外の継続事業
開始年度	平成　28　（　2016　）年度	根拠法令等	荒川区立ゆいの森あらかわ条例	
終期設定	● 有　○ 無　令和　7　（ 2025 ）年度			
実施基準	○ 法令基準内　○ 都基準内　● 区独自基準	計画区分	○ 計画	● 非計画

行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市
	政策	10	活力ある地域コミュニティの形成
	施策	02	地域文化とコミュニティの拠点づくり

目的	生涯学習や地域コミュニティの拠点となるよう、「ゆいの森あらかわ」の中央図書館、吉村昭記念文学館、子どもひろばの３つの機能が有機的に融合した事業のほか、他部署や他機関と連携した事業及びボランティア活動の支援を展開する。
対象者等	区民及び施設利用者
内容	【施設機能等連携イベント】 図書館、文学館、子ども施設の各機能が連携した講演会やイベント等を開催。 【地域活動支援】 地域コミュニティの拠点として、他部署や他機関との連携を図りながら、地域住民の活動やボランティア活動を支援する。 【他機関協働事業】 他部署や他機関と連携し、区民の方が施設に足を運ぶきっかけとなる幅広い分野にわたる魅力ある事業を展開する。
経過	平成22年 3月　複合施設の設置及び運営に関する懇談会報告書 平成23年 7月　（仮称）荒川二丁目複合施設基本計画策定 平成24年 3月 荒川地区都市再生整備計画策定 平成28年 3月 管理運営方針の策定 6月会議 設置条例制定 12月 学びラウンジボランティア開始 平成29年 3月26日　開館　4月～5月　開館記念イベント開催 8月　区内事業者と連携した企画展及びアニメ上映会開催 平成30年 1月　新春舞踊ショー・昭和写真展開催（～3月） 3月　開館1周年記念イベント（逢坂剛氏講演会等） 8月　来館者100万人達成 平成31年 7月　切断ヴィーナス写真展と講演会 令和２年 1月　来館者200万人達成
必要性	地域活動への参加や多様な体験や学習のきっかけとして事業を展開する必要がある。
実施方法	（ 1直営 ）　（ 直営の場合　● 常勤職員　● 会計年度任用職員 ）

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移 30年度	元年度	2年度	3年度見込み	目標値(8年度)	指標に関する説明
①	事業開催数（回）	493	513	322	233	500	ゆいの森で実施した事業数
②	ボランティア活動者数	91	111	98	105	145	ゆいの森課のボランティア全体（図書館ボランティア含む）
③							

事務事業の分類 3年度	4年度	分類についての説明・意見等
重点的に推進	重点的に推進	地域コミュニティ及び文化推進の新たな拠点として、三つの機能の融合施設であることを生かした、様々な事業を実施するとともに、新たな文化活動を積極的に企画・発信していく。

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
予算額	-	-	10,036	8,505	6,808	6,856	5,496
決算額（3年度は見込み）	-	-	4,395	5,336	4,510	1,422	5,496

実績の推移 事項名（3年度は見込み）	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
事業開催数（回）		2	332	493	513	322	233
ボランティア活動者数		20	87	91	111	98	105

予算・決算の内訳

令和元年度（決算） 節	主な事項	金額（千円）	令和2年度（決算） 節	主な事項	金額（千円）	令和3年度（予算） 節	主な事項	金額（千円）
報償費	イベント講師謝礼	630	報償費	イベント講師謝礼	340	報償費	イベント講師謝礼	668
需用費	消耗品費・印刷費	604	需用費	消耗品費・印刷費	394	需用費	消耗品費・印刷費	961
役務費	展示運搬・展示保険料	10	役務費	展示運搬・展示保険料	2	役務費	展示運搬・展示保険料	43
委託料	企画展示制作等	3,266	委託料	企画展示制作等	686	委託料	企画展示制作等	2,889
			使用料	放映権	0	使用料	放映権	935

（単位：千円）

行政コスト計算書	勘定科目	元年度	2年度	差額	勘定科目	元年度	2年度	差額
行政費用	給与関係費	5,380	1,749	▲ 3,631	行政収入 地方税等	0	0	0
	物件費	3,871	1,080	▲ 2,791	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	640	342	▲ 298	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	458	161	▲ 297
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	458	161	▲ 297
	賞与・退職給与引当金繰入額	626	401	▲ 225	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 10,059	▲ 3,411	6,648
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	10,517	3,572	▲ 6,945	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 10,059	▲ 3,411	6,648
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 10,059	▲ 3,411	6,648

備考	行政費用の減少については、感染症の影響によるイベントの実施方法の見直しに伴い、物件費、補助費が減少した。行政収入では、感染拡大防止対策として休館したことによりグッズの売り上げが減少したため、収入が減っている。
問題点・課題	・新型コロナウイルス感染防止の観点から、感染対策を徹底したうえで開催しうる事業や、オンラインを活用した事業を展開することにより、近隣住民だけでなく全国から参加できる事業を展開し、より施設の認知度を高めていく。 ・ボランティア登録者が気軽に参加できる環境を整えるとともに、継続して活動できるよう支援していく必要がある。子育て世代や仕事をしている人が参加しやすい仕組みに見直すことで、活動できる場を広げていく。

問題点・課題の改善策

	令和2年度に取り組む具体的な改善内容	令和2年度に実施した改善内容および評価	令和3年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	感染症予防により募集人数が少なくなる中、実施回数を増やすなどの取り組みを実施する。	感染症対策を徹底した上でイベントを実施し、あわせて一部のイベントについては、動画配信を実施した。	感染症予防に取り組みつつ、イベントを開催するとともに、オンラインや動画配信による事業も実施していく。
②	園芸ボランティアとして自主活動の場が広がる取り組みを実施する。	活動の場を広げたとともに、広報誌を創刊し活動の充実を図った。	継続した活動を支援するとともに、親子で気軽にボランティアに参加できる仕組みを検討していく。
③			

他区の実施状況								
（実施	0	区	未実施	22	区	不明	0	区）

議会質問状況（要旨）
・平成28年度　予特　ボランティアについて ・平成28年度　予特　オープニングイベント等について ・平成28年度　決特　ボランティアの活用について ・平成29年度　決特　事業者と連携したイベントの実施について ・平成29年度　予特　魅力あるイベントについて

事務事業分析シート（令和3年度）

No1

事務事業コード	05-04-03	戦略プラン	● 協働　○ 業務　○ 財務　○ 人事		
事務事業名	子どもひろば運営費	部課名	地域文化スポーツ部ゆいの森課	課長名	小林
		担当者名	川上・飯野	内線	2256

事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（3年度）	01-05-01	子どもひろば運営費

事務事業の種類	○ 新規事業　（ ○ 3年度　○ 2年度 ）		○ 建設事業	● それ以外の継続事業
開始年度	平成　29　（　2017　）年度	根拠法令等	一時預かり実施要綱	
終期設定	● 有　○ 無　令和　7　（ 2025 ）年度			
実施基準	○ 法令基準内　○ 都基準内　● 区独自基準	計画区分	○ 計画	● 非計画

行政評価事業体系	分野	V　文化創造都市
	政策	10　活力ある地域コミュニティの形成
	施策	02　地域文化とコミュニティの拠点づくり

目的	子どもたちが多様な体験や学びによって、将来の夢を育む支援を行う。また、乳幼児とその保護者や小中学生の安全な居場所を提供する。
対象者等	主に中学生以下の生徒、児童、乳幼児とその保護者
内容	【乳幼児（主に遊びラウンジ）】 絵本館との融合を図りながら、雨の日でも遊べる成長に合わせた室内遊具を設置。保育士の見守りにより、簡単な育児相談も実施。 【児童、生徒（主に学びラウンジ）】 体験キットや理科実験等のワークショップを実施する他、放課後の安全な居場所を提供。 【一時預かり】 令和2年度より運営を委託から直営に変更し、区内在住の未就学児、ゆいの森利用者を対象として実施。主な運営方法の変更は、クール制から時間制（最大3時間まで）・定員5名から4名・月の利用限度は一人当たり7クールから21時間・費用1クール1,000円から1時間当たり500円（兄弟の場合、二人目以降500円から250円）
経過	平成21年11月　複合施設の設置及び運営に関する懇談会の設置 平成23年 7月　（仮称）荒川二丁目複合施設基本計画策定 平成28年 3月　管理運営方針の策定 6月会議 設置条例制定 体験キット、体験ワゴン、星空学習ソフト、デジタル地球儀など小中学生を対象とした体験事業を開発 平成29年 3月26日　開館 令和2年度　　乳幼児一時預かり直営化に伴い、会計年度任用職員を増員（月額2名、日額6名）
必要性	子どもたちの安全な居場所や自主的な学びの場を提供するとともに、子育て世代のコミュニティの場として活用されており、必要性は高い。
実施方法	（ 1直営 ）　（ 直営の場合　● 常勤職員　● 会計年度任用職員 ）

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移 30年度	元年度	2年度	3年度見込み	目標値(8年度)	指標に関する説明
①	遊びラウンジ利用者数（子どものみ）	34,620	28,619	8,908	15,484	39,000	
②	体験キット貸出件数	10,811	11,178	2,440	5,697	27,000	
③	ワークショップ等参加者数	6,091	4,731	253	2,378	5,100	ワークショップ、校外学習の参加者

事務事業の分類 3年度	4年度	分類についての説明・意見等
重点的に推進	重点的に推進	就学前の親子や小中学生の安全な居場所として遊び・学びラウンジの充実を図っていくとともに、未来を担う子どもたちに様々な体験を提供し、将来へ夢を育む場となるよう、積極的に事業を進めていく。

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
予算額	-	-	26,634	21,427	23,160	11,560	13,383
決算額（3年度は見込み）	-	-	21,316	19,226	20,908	8,044	13,383

実績の推移 事項名（3年度は見込み）	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
一時預り者数（延べ人数）			2,557	3,019	2,998	1,343	2,287
体験キット等保有数（種類）			17	21	26	31	36
校外学習等参加者数（延べ人数）			1,451	1,486	1,442	0	1,534

予算・決算の内訳

令和元年度（決算） 節	主な事項	金額（千円）	令和2年度（決算） 節	主な事項	金額（千円）	令和3年度（予算） 節	主な事項	金額（千円）
賃金	臨時職員賃金	911	報酬	臨時職員賃金	5,201	報酬	臨時職員賃金	6,837
報償費	講師謝礼	93	職員手当	臨時職員期末手当	685	職員手当	臨時職員期末手当	1,338
需用費	消耗品費等	1,769	報償費	講師謝礼	10	報償費	講師謝礼	242
役務費	体験型展示通信料	101	旅費	臨時職員通勤費	140	旅費	臨時職員通勤費	463
委託料	乳幼児一時預かり業務委託等	18,034	需用費	消耗品費等	1,626	需用費	消耗品費等	1,949
			役務費	体験型展示通信料	102	役務費	体験型展示通信料	103
			委託料	ワークショップ委託等	280	委託料	ワークショップ委託等	2,451

（単位：千円）

行政コスト計算書	勘定科目	元年度	2年度	差額	勘定科目	元年度	2年度	差額
行政費用	給与関係費	14,347	14,886	539	行政収入 地方税等	0	0	0
	物件費	20,815	2,148	▲ 18,667	国庫支出金	3,402	2,982	▲ 420
	維持補修費	0	0	0	都支出金	3,402	2,482	▲ 920
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	93	10	▲ 83	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	2,776	620	▲ 2,156
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	9,580	6,084	▲ 3,496
	賞与・退職給与引当金繰入額	1,669	2,173	504	行政収支差額(a)－(b)＝(c)	▲ 27,344	▲ 13,133	14,211
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	36,924	19,217	▲ 17,707	通常収支差額(c)＋(d)＝(e)	▲ 27,344	▲ 13,133	14,211
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)－(g)＝(h)	0	0	0	当期収支差額(e)＋(h)	▲ 27,344	▲ 13,133	14,211

備考	行政費用としては、乳幼児一時預かりの直営化に伴い委託料が減少した。行政収入としては、感染症拡大防止対策として、乳幼児一時預かりのサービスを休止したため、その他行政収入が減少した。
問題点・課題	・学びラウンジについて、体験キットの体験からワークショップの参加にあたって、体系立てた事業展開を図る必要がある。 ・遊びラウンジ、一時預かりの一体的な新たな運営について、課題を整理し、新型コロナウイルス感染防止策に対応した改善を図っていく必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和2年度に取り組む具体的な改善内容	令和2年度に実施した改善内容および評価	令和3年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	利用者の低年齢化にも対応した幅広い層で楽しめる体験キットを制作、購入する等品揃えを増やす。	ゲームや遊び感覚で楽しみながら理論的学びへの橋渡しとなる体験キットを製作し、体験キットを活用したワークショップを実施した。	体験キットの体系化を図るとともに、体系化を踏まえた体験キットの製作とワークショップの実施を行う。
②	新型コロナウイルス感染症予防の徹底を図りつつ、新たな運営方法について分かりやすく丁寧に周知を行っていく。	定員の縮小や消毒の徹底など職員の安全にも考慮した感染症対策を講じ、新たな利用方法についてホームページ、チラシ等で周知した。	遊びラウンジ、一時預かり利用者のアンケート調査を行い、運営内容の充実やより具体的な利用方法の周知を図る。
③			

他区の実施状況	
	（実施 22 区　未実施 0 区　不明 0 区）
	遊びラウンジは、国の事業である「地域子育て支援拠点事業」に基づき実施している。
議会質問状況（要旨）	・平成29年度　決特　乳幼児一時預かりについて ・平成30年度　予特　乳幼児一時預かりについて ・令和元年度　決特　乳幼児一時預かりについて

事務事業分析シート（令和3年度）

No1

事務事業コード	05-04-04	戦略プラン	● 協働　○ 業務　○ 財務　○ 人事		
事務事業名	中央図書館運営費	部課名	地域文化スポーツ部ゆいの森課	課長名	小林
		担当者名	佐藤	内線	2256

事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（3年度）	01-04-01	中央図書館運営費

事務事業の種類	○ 新規事業　（ ○ 3年度　○ 2年度　）		○ 建設事業	● それ以外の継続事業
開始年度	平成　28　（　2016　）年度	根拠法令等	図書館法、荒川区立ゆいの森あらかわ条例、荒川区立図書館条例、荒川区立図書館館則	
終期設定	● 有　○ 無　令和　7　（ 2025 ）年度			
実施基準	○ 法令基準内　○ 都基準内　● 区独自基準	計画区分	● 計画　○ 非計画	

行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市
	政策	10	活力ある地域コミュニティの形成
	施策	03	「読書のまちづくり」の推進

目的	図書資料や図書館オンラインシステムを充実させ、関係機関と協力して読書活動に親しむ多様な事業展開を行うことによって、子どもたちの読書環境の向上や区民の読書活動を推進し、利用者全体の課題解決や生涯学習を支援する。
対象者等	図書館利用者、その他図書館等関係機関
内容	○多様化するニーズに応え、課題解決を支援できるよう、より専門的な資料から一般的な資料まで購入し誰でも利用しやすい環境を整え提供する。 ○３０万冊規模の開架の書架等を活用した、特集コーナー等の設置やイベントでの関連図書資料の展示など、図書資料の積極的な提供を行う。 ○大規模な蔵書を効率的かつ効果的に管理し、良質なサービスを提供する。 ○絵本館、現代俳句センターなど、特徴となる資料の収集・提供を行う。特に、俳句資料については、現代俳句協会との協定に基づき、関係部署と連携しながら事業を進める。 ○「読書を愛するまち・あらかわ」宣言に基づき、地域図書館、学校図書館、街なか図書館が連携し、本が身近にあるまちづくりを進める。 【蔵書規模】　開架３０万冊、閉架３０万冊 【資料】　書籍　AV　雑誌　新聞紙
経過	昭和37年 3月　荒川図書館開館 平成５年10月　図書館オンラインシステム稼働 平成10年 5月　南千住図書館開館 平成18年 4月　「これからの図書館調査懇談会報告書」、「荒川区子ども読書活動推進計画」策定 平成19年 3月　図書資料収集基準として、荒川区立図書館資料収集要綱を制定 平成20年 7月　第1回柳田邦男絵本大賞を創設、「特色ある図書館づくり」を目指し、分担収集開始 平成23年10月　「荒川区子ども読書活動推進計画（第二次）」策定 平成28年 4月　「荒川区子ども読書活動推進計画（第三次）」策定、12月　荒川図書館閉館 平成29年 2月　新図書館オンラインシステムへ変更、3月　中央図書館開館 平成30年 5月　「読書を愛するまち・あらかわ」宣言 令和３年 4月　「荒川区子ども読書活動推進計画（第四次）」策定
必要性	多様化するニーズと課題に対応し、区民の読書活動及び生涯学習等、生涯に渡り学ぶことによって、自ら課題を解決することができる環境づくりに必要な事業である。
実施方法	（ 2一部委託 ）　（ 直営の場合　○ 常勤職員　○ 会計年度任用職員 ） 配本車運行業務、図書館オンラインシステム機器保守委託、図書資料装備委託等

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移 30年度	元年度	2年度	3年度見込み	目標値(8年度)	指標に関する説明
①	区民１人当たりの蔵書冊数（点）	4.33	4.32	4.35	4.37	4.80	（全館）蔵書点数÷住基人口
②	区民１人当たり個人総貸出点数（点）	9.73	9.19	7.47	9.40	10.00	（全館）貸出点数÷住基人口
③	個人登録者数（人）	91,743	78,506	75,885	80,000	130,000	（全館）4月1日現在

事務事業の分類 3年度	4年度	分類についての説明・意見等
重点的に推進	重点的に推進	「読書を愛するまち・あらかわ」の実現に向け、図書館サービスについて周知し、活用してもらう必要があるため、重点的に推進する。

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
予算額	-	-	136,150	135,861	143,584	149,673	215,663
決算額（3年度は見込み）	-	-	123,564	130,022	132,219	138,218	215,663

実績の推移 事項名（3年度は見込み）	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
入館者数（人）※中央館のみ		15,991	690,094	707,295	697,418	355,860	432,000
個人総貸出点数（点）※		15,115	764,205	764,510	727,666	552,015	683,000
特集コーナー設置数（回）※		7	73	166	210	184	188
おはなし会開催回数（回）※		0	69	71	65	32	48

予算・決算の内訳

令和元年度（決算） 節	主な事項	金額（千円）	令和2年度（決算） 節	主な事項	金額（千円）	令和3年度（予算） 節	主な事項	金額（千円）
賃金	臨時職員賃金	11,065	報酬	会計年度任用職員（日額）報酬等	13,577	報酬等	会計年度任用職員（日額）報酬・旅費等	17,959
報償費	各種講座講師謝礼	1,994	報償費	各種講座講師謝礼	1,078	報償費	各種講座講師謝礼	2,148
需用費	図書資料購入費等	48,530	需用費	図書資料購入費等	47,781	需用費	図書資料購入費等	50,158
役務費	配本車運行料等	13,547	役務費	配本車運行料等	13,987	役務費	配本車運行料等	14,592
委託料	図書館オンラインシステム機器保守委託等	29,129	委託料	図書館オンラインシステム機器保守委託等	33,090	委託料	図書館オンラインシステム機器保守委託等	101,781
使用料及び賃借料	図書館オンラインシステム機器賃借料等	27,246	使用料及び賃借料	図書館オンラインシステム機器賃借料等	27,948	使用料及び賃借料	図書館オンラインシステム機器賃借料等	28,623
備品購入費	備品購入費	578	その他	備品購入費・負担金	757	その他	備品購入費・負担金	402

（単位：千円）

行政コスト計算書	勘定科目	元年度	2年度	差額	勘定科目	元年度	2年度	差額
行政費用	給与関係費	79,083	90,088	11,005	行政収入 地方税等	0	0	0
	物件費	130,070	123,361	▲ 6,709	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	2,149	1,280	▲ 869	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	500	220	▲ 280
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	500	220	▲ 280
	賞与・退職給与引当金繰入額	9,198	17,742	8,544	行政収支差額(a)－(b)＝(c)	▲ 220,000	▲ 232,251	▲ 12,251
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	220,500	232,471	11,971	通常収支差額(c)＋(d)＝(e)	▲ 220,000	▲ 232,251	▲ 12,251
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)－(g)＝(h)	0	0	0	当期収支差額(e)＋(h)	▲ 220,000	▲ 232,251	▲ 12,251

備考	行政費用では、会計年度任用職員の制度の変更により、物件費が減少する一方、給与関係費が増加した。また、感染症拡大防止対策として、事業等を中止したため補助費が減少した。行政収入では、休館等によりコピーサービスの利用料が減少した。
問題点・課題	・地域が一体となった読書のまちづくりを推進するため、「読書を愛するまち・あらかわ」宣言を広く区民等に周知し、区民等の読書活動に係る気運醸成を図っていく必要がある。 ・令和3年4月に策定した子ども読書活動推進計画（第4次）に基づき、家読（うちどく）の推進や障がいのある方への読書支援の充実といった計画事業を着実かつ迅速に進めていく必要がある。 ・図書館サービスの更なる利便性の向上を図るため新たな図書館システムを構築する必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和2年度に取り組む具体的な改善内容	令和2年度に実施した改善内容および評価	令和3年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	「読書を愛するまち・あらかわ」宣言とその取組みを広く周知するため、効果的な事業を行うとともに他部署との連携も推進する。	絵本原画展や参加型イベントの開催、他部署との連携事業の展開により、様々な世代の区民が読書に親しむきっかけを創出した。	宣言の周知等について全庁的な取組を進めるとともに、区民とともに周知・啓発活動を行う組織を結成するなど様々な周知を図る。
②	感染症対策を施した事業を実施しつつ、朗読の動画配信や本の郵送貸出等の来館せずに読書を楽しめるサービスの提供に努める。	感染症拡大防止に配慮した事業や本の郵送貸出し、司書のお薦めの本のセットの作成等、読書活動推進サービスを実施した。	関連部署と密接に連携して「家読」の活動を推進していくとともに、障がい者用資料の更なる充実や展示会等の取組を進めていく。
③	各種講座の開催、交流の場の提供等ボランティアの継続的な活動を支援することにより、より地域に根差した図書館づくりを進める。	読書支援に関するボランティアのほか、本の修理等の図書業務に携わるボランティアの講座を開催し、ボランティアの育成を行った。	利便性の一層の向上を図るため、資料検索やHP等の機能が拡充した新図書館システムを導入する。

他区の実施状況	
	（実施 22 区　未実施 0 区　不明 0 区）
	中央図書館については全区が設置し、子ども読書推進計画の策定、図書館オンラインシステムが導入されている。
議会質問状況（要旨）	・令和元年度　決特　図書の弁償・図書資料費・障がい者支援・図書館機能の周知について ・令和元年度　予特　絵本大賞・読書を愛するまち・あらかわの推進について ・令和２年度　決特　図書館での障がい者サービスについて ・令和２年度　予特　読書を愛するまちあらかわのPRについて 電子図書の導入について

事務事業分析シート（令和3年度）

No1

事務事業コード	05-04-05	戦略プラン	● 協働　○ 業務　○ 財務　○ 人事		
事務事業名	吉村昭記念文学館推進事業運営費	部課名	地域文化スポーツ部ゆいの森課	課長名	小林
		担当者名	増田	内線	2256

事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（3年度）		
	01-06-01	吉村昭記念文学館運営費

事務事業の種類	○ 新規事業　（ ○ 3年度　○ 2年度 ）		○ 建設事業	● それ以外の継続事業
開始年度	平成　18　（　2006　）年度	根拠法令等	荒川区立ゆいの森あらかわ条例	
終期設定	● 有　○ 無　令和　7　（ 2025 ）年度			
実施基準	○ 法令基準内　○ 都基準内　● 区独自基準	計画区分	○ 計画	● 非計画

行政評価事業体系			
	分野	V	文化創造都市
	政策	10	活力ある地域コミュニティの形成
	施策	02	地域文化とコミュニティの拠点づくり

目的

郷土を代表する作家・吉村昭氏及び吉村氏に関連のある作家に関する資料の収集、研究等を行うとともに、同氏の作品等を基盤とした幅広い文化活動を展開することにより、区民の心を育み、区の文化振興に寄与する。

対象者等

区民等

内容

〇吉村氏に関する資料の収集、整理、保管及びその研究
〇企画展示の計画、展示物の製作などの展示活動
〇講演会や吉村氏・津村氏とゆかりのある地との連携等を通じた、吉村氏と同氏の作品の普及啓発
〇文学館が地域文化の醸成に貢献できるよう友の会の運営
〇ホームページ等での広報

文学館エリア：約540㎡（ゆいの森あらかわ２階・３階の一部、復元書斎を含む）
入館料：無料

経過

平成 4年度　吉村昭氏区民栄誉賞受賞（5月）、日暮里図書館吉村昭コーナー設置
平成18年度　吉村昭氏逝去(7月31日)
平成26年度　吉村昭記念文学館友の会設立（3月）
平成28年度　吉村昭記念文学館開館（平成29年3月26日）・開館記念企画展（平成29年7月まで）
平成29年度　日本文藝家協会共催事業（7月）、第2回企画展、おしどり文学館協定締結式（11月5日）、落語会（学習院大学落語研究会）
平成30年度　瀬尾まなほ氏講演会、企画展、おしどり1周年講演会(山口昭男氏）、朗読会（竹下景子氏）
令和元年度　企画展、朗読会（橋爪功氏）、おしどり2周年講演会（出久根達郎氏）
令和 2年度　ウェブ企画展、友の会限定イベント実施

必要性

吉村氏の功績を後世に伝えるとともに、吉村作品を通してさらに広範な文学の世界に触れる機会を広く区民に向けて提供することで、区における文化の醸成や区のＰＲにも寄与することから、必要性は非常に高い。

実施方法

（ 2一部委託 ）　（ 直営の場合　○ 常勤職員　○ 会計年度任用職員 ）

文学館の運営に当たっては、学芸員の資格を有する専門の会計年度任用職員を採用して実施するとともに、専門家の御意見も伺いながら進める。展示製作業務、デジタル写真撮影業務等を委託

指標

	事務事業の成果とする指標名	指標の推移 30年度	元年度	2年度	3年度見込み	目標値(8年度)	指標に関する説明
①	文学館来館者数（人）	39,638	53,584	32,007	44,000	70,000	平成30年8月1日より集計開始
②	事業の参加人数（人）	678	663	644	250	800	イベントや講演会等の参加者人数
③	文学館友の会会員数（人）	359	397	407	450	650	吉村氏の功績や作品を広く周知するための指標

事務事業の分類 3年度	4年度	分類についての説明・意見等
重点的に推進	重点的に推進	企画展の開催や友の会の運営を通して吉村文学を生んだ荒川区の魅力を区内外に広く発信するとともに、地域文化の醸成を図る事業であるため、重点的に推進する。

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
予算額	-	-	24,263	23,438	22,971	21,141	18,299
決算額（3年度は見込み）	-	-	15,780	16,087	18,531	16,397	18,299

実績の推移 事項名（3年度は見込み）	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
文学館来館者数（人）	－	－	－	39,638	53,584	32,007	44,000
事業の参加者人数（人）	235	506	683	678	663	644	250
文学館友の会会員数（人）	350	735	404	359	397	407	450

予算・決算の内訳

令和元年度（決算） 節	主な事項	金額（千円）	令和2年度（決算） 節	主な事項	金額（千円）	令和3年度（予算） 節	主な事項	金額（千円）
報償費	企画展等講演会謝礼	438	報償費	企画展等謝礼	540	報償費	企画展等謝礼	1,516
需用費	資料購入、印刷製本	1,948	需用費	資料購入、印刷製本	1,863	需用費	資料購入、印刷製本	1,819
役務費	展示資料等運搬費	3,233	役務費	展示資料等運搬費	2,804	役務費	展示資料等運搬費	5,463
委託料	企画展展示製作物等	11,946	委託料	企画展ウェブ制作等	9,878	委託料	企画展展示制作物等	7,800
使用料	著作権使用料	400	使用料	著作権使用料	376	使用料	著作権使用料	635
備品購入費	直筆原稿等購入費	360	備品購入費	直筆原稿等購入費	670	備品購入費	自筆原稿等購入費	519
賃金等	臨時職員賃金、研修受講費	206	報酬等	会計年度職員報酬、負担金等	266	報酬等	会計年度職員報酬、負担金等	547

（単位：千円）

行政コスト計算書	勘定科目	元年度	2年度	差額	勘定科目	元年度	2年度	差額
行政費用	給与関係費	17,934	17,734	▲ 200	行政収入 地方税等	0	0	0
	物件費	14,989	15,521	532	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	596	630	34	使用料及び手数料	15	2	▲ 13
	減価償却費	0	0	0	その他	982	1,085	103
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	997	1,087	90
	賞与・退職給与引当金繰入額	2,086	4,013	1,927	行政収支差額(a)－(b)＝(c)	▲ 34,608	▲ 36,811	▲ 2,203
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	35,605	37,898	2,293	通常収支差額(c)＋(d)＝(e)	▲ 34,608	▲ 36,811	▲ 2,203
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)－(g)＝(h)	0	0	0	当期収支差額(e)＋(h)	▲ 34,608	▲ 36,811	▲ 2,203

備考	行政費用については、吉村氏の自筆原稿の購入により物件費が増加した。行政収入については、友の会の会員区分を増やしたことにより、その他行政収入が増加した。
問題点・課題	・ゆいの森内、他部課との連携を強化するとともに、福井県ふるさと文学館、三鷹市、田野畑村をはじめ、他館や他自治体との連携の幅を広げ、事業を展開することで、来館者の増加を図る必要がある。 ・友の会会員に向けた「参加型イベント」の実施等、グッズ以外の特典を充実し会員満足度を高めるとともに、吉村文学の読者層を増やし、文学館への来館、新規入会につなげていく必要がある。 ・事業企画における魅力的なテーマ設定や、ウェブやSNS等の有効活用等により、既存の展示方法やPR方法を見直し、若者等新たな客層を呼び込む必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和2年度に取り組む具体的な改善内容	令和2年度に実施した改善内容および評価	令和3年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	ゆいの森における連携の強化に加え、展示において関連自治体を紹介するなど、他館や他自治体との連携も充実させる。	企画展PRｸﾞｯｽﾞの配布を通じて遊び広場やｶﾌｪと連携を進めた。また福井県や田野畑村への資料借用や観光紹介等により連携を図った。	他の作家を取り入れた展示、企画展の関連地での資料借用・聞き取りなど、他館や他自治体との連携を強化する。
②	魅力的なグッズ制作の他、会員限定・優先募集の事業等を充実させ、会員満足度向上を図る。	個人会員（3年）の創設、ゆうちょ払込取扱票の導入、会員限定の参加型イベントを通じて、会員の利便性と満足度向上を図った。	参加型イベント等の充実により、更なる魅力向上に努めるとともに、友の会事業の発信等各種媒体でのPRを強化する。
③	ウェブ上の展示や撮影スポットの設置によるSNS発信の仕掛けを作る等、若い世代の客層を呼び込む取り組みを実施する。	ウェブ展示の開催、撮影スポット設置、広報誌のデザインリニューアル等により、若い世代にアプローチすることができた。	入門者向けの展示、ウェブやSNSの活用、動画配信、著名人によるイベント等により、若者等新たな客層の獲得を図る。

他区の実施状況	
	（実施 9 区　未実施 13 区　不明 0 区）
	文学館設置区 港区、新宿区、文京区、台東区、大田区、世田谷区、渋谷区、北区、練馬区
議会質問状況（要旨）	・平成18年 三定　記念館の設置要望について ・平成23年 四定　文学館開館に向けた事前周知について ・平成26年度 予特　友の会の設立について ・平成27年度 予特　文学館の開館後のイベントについて ・平成29年度 決特　文学館の周知、友の会、上映会について